

「クローさんの世直し7原則」からの刺激

石井保志（図書館司書）

ゆきさん

楽しみにしていた乃木坂スクールが始まり、今期は赤坂キャンパスで直接授業を受けたいという姿勢で出席いたしました。教室での座席は後方でしたが、気持ちは前のめりで、早速、行動したくなる3つの情報に巡り合いました。

1. クローさんの「世直し7原則」が、自分にヒット

特に「従来の発想を創造的にひっくり返す」という原則が、大いに響きました。自分自身の博論テーマに大いに関係があるからでした。

私の博論のテーマは、「患者会相互のノウハウを交換する社会インフラの構築」ですが、今まで、個々の患者会のノウハウから帰納的に結論が導けるのではと漠然と考えていました。

しかし、クローさんの原則に触れ、考えの出発点を個々の患者会ではなく、患者会の皆さんがゴールとする「理念」を出発点とすべきではないかと閃きました。もしかしたら、難しいことではなく、ゴールを起点に考え始めることが「ひっくり返す」ための妙手ではないかと。

そういえば、今までの乃木坂スクールの講師の先生にも、そのような先生が何人もいらしたと思い起こしました。しかし、博論を書かなくてはならない立場だからこそ、今の時期だからこそ、響いたのだと思います。

ゆきさんが伝え続けて下さったことを、受け手である私がキャッチできた時間でした。情報の発信者からのメッセージに対し、私のアンテナがようやく受信できる感度を持ったのでしょうか。授業の中に感動がありました。

2. 圧倒された「えにしのかいHP」の目次

読むのに苦労するほど小さな文字のカラー印刷のチラシが2番目の衝撃でした。内容はえにしのHP内の個々の部屋の見出しです。そういえば、大学院入学時には、「3年間で、この部屋全部を読んでやろう」と決意したことを思い起こしました。その決意は、いつのまにか途中で薄れたものの、自分の中に今でもその目標が潜んでことを実感しました。

各部屋の主の皆さんの体験は迫力があり、まとめた記事でつまみ食いしたらその迫力が損なわれるものです。そう思うからこそ、ひとつひとつの部屋を制覇していく気になったのですが、膨大な文字の分量と部屋の多さに当初から大変さを感じました。読むだけでも大変なのに、このえにしHPを営々と作られて

こられた労力に、凄すぎると思いを馳せたものです。配布された A3 用紙 1 枚の「えにしの入場券」は、再度、自分の気持ちに火をつけてくれました。

3. 本のチラシ

3 つ目の刺激は、いつもなら注視しないことが多いゆきさんの本のチラシです。毎学期ごとに配布されているものです。しかし、今回に限ってはチラシにある、ゆきさんのご著書を半分しか自分は持っていません。これはまずいと思いました。まずいと思ったことが刺激です。文章を書けるようになりたい、わかりやすく伝わる書き方を体得したいと思ってきましたが、お手本を読むことをさぼってきました。あー、あと 10 年本を読み時間が欲しいと思いました。手元にある本からでも開始できます。お手本を読む。この言葉を今回の授業で初めて思いつきました。

このように 3 つの刺激は、言い続けたゆきさん、ゆきさんの言葉をようやく受信できるようになってきた自分、両者がマッチしたからこそ、なのでしょう。この刺激を在学中、ずっと持ち続けられるような気持ちになった授業でした。

The image shows a scan of a book catalog page. At the top left, there is a small photo of a person and some introductory text. Below this is a table with columns for book titles, authors, and prices. The text is in Japanese and includes various book titles and their corresponding details. There are also some smaller sections of text and a small photo of a person in the bottom right corner. The overall layout is typical of a book catalog or a page from a magazine.